

「平成 20 年度普及に移す成果」

茨城県農業総合センター山間地帯特産指導所

チャの樹冠下点滴施肥は 30%減肥、収量増加及び品質維持が可能である

【樹冠下点滴施肥の特徴と方法】

- ①自動点滴施肥装置により樹冠下に配置した 20cm ピッチの灌水チューブから、灌水と同時に液肥を点滴施肥します。液肥には尿素複合液肥等を使用します。
- ②点滴施肥で一回に必要な水の量は液肥の希釈倍率にもよりますが、10a あたり約 3.5t です。
- ③点滴施肥の設備費は 10a あたり約 37 万円です。
- ④樹冠下に点滴施肥をすることでうね間の土壌中硝酸態窒素を低く維持でき、窒素の溶脱を低減できます。



図 自動点滴施肥装置及び樹冠下点滴施肥の様子

【収量の増加が認められる】

樹冠下点滴施肥を行うことで 30%減肥でも、一番茶、二番茶とも慣行施肥より収量の増加傾向が認められます。

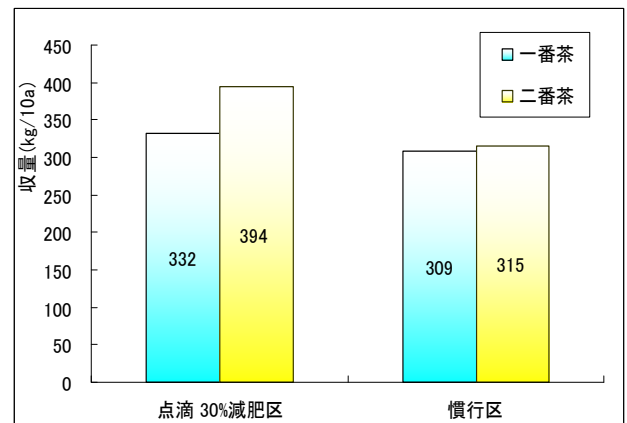


図 一番茶及び二番茶の生葉収量 (平成 17~19 年の平均値)

【品質は維持できる】

樹冠下点滴施肥を行うことで 30%減肥でも、慣行施肥と同等の品質が得られます。

試験区	一番茶品質			
	外観	内質	合計 (指数)	遊離アミノ酸
30%減肥区	15.3	27.8	43.0 (100)	2.2
慣行区	15.5	27.3	42.8 (100)	2.3

試験区	二番茶品質			
	外観	内質	合計 (指数)	遊離アミノ酸
30%減肥区	16.7	25.3	42.0 (102)	0.7
慣行区	15.3	25.7	41.0 (100)	1.0

注) 外観=形状+色沢、内質=香気+水色+滋味
官能評価は各項目 10 点満点で合計 50 点満点
遊離アミノ酸は金赤外分光分析法、乾物当たり%
平成 17~19 年の平均値